

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2004-13848 (P2004-13848A)

【公開日】平成 16 年 1 月 15 日 (2004.1.15)

【年通号数】公開・登録公報 2004-002

【出願番号】特願 2002-170589 (P2002-170589)

【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 F 15/02

G 0 6 F 17/60

H 0 4 M 1/00

H 0 4 M 1/725

H 0 4 Q 7/20

H 0 4 Q 7/38

【F I】

G 0 6 F 15/02 3 5 5 A

G 0 6 F 15/02 3 1 5 L

G 0 6 F 15/02 3 2 5 C

G 0 6 F 15/02 3 3 5 E

G 0 6 F 17/60 1 6 2 A

H 0 4 M 1/00 U

H 0 4 M 1/725

H 0 4 B 7/26 1 0 9 M

H 0 4 Q 7/04 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 6 月 13 日 (2005.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スケジュールデータを記憶可能なスケジュールメモリと、  
このスケジュールメモリに前記スケジュールを設定可能な設定回路と、  
当該スケジュールを報知する報知回路と、  
前記スケジュールデータと時刻データに基づいて前記報知回路に報知指令を出力する演算回路と、を備えて成り、

前記スケジュールデータはスケジュール時刻とスケジュールカテゴリーに関するデータを含み、

前記演算回路は、前記スケジュールカテゴリーに応じて所定の報知演出形態を決定し、この報知演出形態に対応する報知指令を前記報知回路に出力し、

前記報知回路は、この報知演出形態に応じて報知を出力することを特徴とする、スケジュール管理装置。

【請求項 2】

前記スケジュールカテゴリーに応じて報知を出力する報知タイミングが設定され、報知タイミングにより報知が出力されることを特徴とする、請求項 1 記載のスケジュール管理装置。

## 【請求項 3】

スケジュールデータを記憶可能なスケジュールメモリと、  
このスケジュールメモリに前記スケジュールを設定可能な設定回路と、  
当該スケジュールを報知する報知回路と、  
前記スケジュールデータと時刻データに基づいて前記報知回路に報知指令を出力する演算回路と、を備えて成り、  
前記スケジュールデータはスケジュール時刻に関するデータを含み、  
前記スケジュールメモリは、複数のスケジュール管理仮想主体と各スケジュール管理仮想主体の特性に関する特性データを更に記憶し、  
所定のスケジュール管理仮想主体を選択可能な選択回路を備え、  
前記演算回路は、前記特性データに応じて報知演出形態を決定し、この報知演出形態に対応する報知指令を前記報知回路に出力し、  
前記報知回路は、この報知演出形態に応じて報知を出力することを特徴とする、スケジュール管理装置。

## 【請求項 4】

前記報知は予備報知、本報知又は再報知からなり、それぞれの報知に対応した報知音出力パターンが設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 3 記載のスケジュール管理装置。

## 【請求項 5】

前記スケジュール管理仮想体は更に表示態様を備え、前記表示態様は、報知タイミング又は報知解除のタイミングによって変化することを特徴とする請求項 3 記載のスケジュール管理装置。

## 【請求項 6】

更に、ユーザーが当該スケジュール管理装置を使用する際のユーザー行動を使用履歴として記憶する使用履歴メモリ、を備えてなり、  
前記使用履歴が所定回数蓄積して前記使用履歴メモリに記憶されることによって報知演出形態が変化するし、ユーザーが選択したスケジュールカテゴリーに対応したスケジュールカテゴリーデータを使用履歴として使用履歴メモリが記憶し、ユーザーが同じスケジュールカテゴリーを複数回選択することによって、そのスケジュールカテゴリーデータが所定値を超えると同じスケジュールカテゴリー - をユーザーが選択したことを反映する報知演出形態が出力されることを特徴とする請求項 1 又は 3 記載のスケジュール管理装置。

## 【請求項 7】

スケジュール時刻とスケジュールカテゴリーからなるスケジュールデータを設定可能にするスケジュール設定手段と、  
ユーザーによって入力された上記スケジュールデータを受領するスケジュールデータ受領手段と、  
上記スケジュールデータを記憶するスケジュール記憶手段と、  
スケジュールカテゴリーに応じてスケジュール時刻あるいはスケジュール時刻前後に最低ひとつの通知形態を演出する通知形態演出手段、  
として携帯型情報端末を機能させる、アラームプログラム。

## 【請求項 8】

特定の報知特性を有する、スケジュールを報知する報知形態を設定可能にする報知形態設定手段と、  
ユーザーによって設定された上記報知形態を受領する報知形態受領手段と、  
上記報知形態を記憶するスケジュール記憶手段と、  
スケジュール時刻からなるスケジュールデータを設定可能にするスケジュール設定手段と、  
ユーザーによって設定された上記スケジュールデータを受領するスケジュールデータ受領手段と、  
上記スケジュールデータを記憶するスケジュール記憶手段と、

報知形態の特定の報知特性に応じてスケジュール時刻あるいはスケジュール時刻前後に最低ひとつの通知形態を演出する通知形態演出手段、

として携帯型情報端末を機能させる、アラームプログラム。

【請求項 9】

特定の報知特性を有する、スケジュールを報知する報知形態を設定可能にする報知形態設定手段と、

ユーザーによって設定された上記報知形態を受領する報知形態受領手段と、

上記報知形態を記憶するスケジュール記憶手段と、

スケジュール時刻とスケジュールカテゴリからなるスケジュールデータを設定可能にするスケジュール設定手段と、

ユーザーによって設定された上記スケジュールデータを受領するスケジュールデータ受領手段と、

上記スケジュールデータを記憶するスケジュール記憶手段と、

報知形態の特定の報知特性と上記スケジュールカテゴリに応じてスケジュール時刻あるいはスケジュール時刻前後に最低ひとつの通知形態を演出する通知形態演出手段、

として携帯型情報端末を機能させる、アラームプログラム。

【請求項 10】

更に、ユーザーのアラーム手段使用履歴を記憶する使用履歴記憶手段として携帯型情報端末を機能させ、

上記通知形態演出手段において、上記使用履歴に応じて通知形態の演出が変化することを特徴とする、

請求項 7 - 9 のいずれかの請求項に記載のアラームプログラム。

【請求項 11】

上記通知形態演出手段において、第一通知形態の演出が解除されたタイミングによって、その他の通知形態の演出が変化することを特徴とする、

請求項 7 - 9 のいずれかの請求項に記載のアラームプログラム。

【請求項 12】

更に、上記スケジュールカテゴリと上記報知形態の特定の報知特性との順応性を識別するコンフリクトチェック手段と、

上記コンフリクト手段による順応性の識別の結果、順応性が認められなかった場合にユーザーに報知形態の再設定を促す報知形態際選択手段、

として携帯型情報端末を機能させる、請求項 7 記載のアラームプログラム。

【請求項 13】

上記請求項 7 - 12 のいずれかの請求項に記載のアラームプログラムを記録した情報記録媒体。